

海外感染症流行情報(2013年8月)

東京医科大学病院 渡航者医療センター

・アジアでのデング熱流行

アジア各地は雨期のシーズンを迎え、各地でデング熱が本格的な流行をおこしています。

東南アジアでは、シンガポールで1万4000人と昨年の5倍、ラオスで3万4000人と昨年の11倍の患者数になっています。8月になり両国とも流行は沈静化の傾向にありますが、その一方で、フィリピン(7万6000人)やベトナム(1万8000人)での患者数が増加しています(WHO Western Pacific Region 2013-8-21)。また、タイでも今年はデング熱が猛威を奮っており、9万人以上の患者が発生している模様です(米国 CDC-Dengue Map 2013-8-16)。

南アジアではインドで7月末までに患者数が1万5000人に達し、昨年の倍の数となりました。とくに南部の Kerala 州や Tamil Nadu 州で多くの患者が発生しています(英国 Fit for Travel 2013-8-22)。スリランカでも首都コロンボを中心に2万人以上の患者が発生している模様です(米国 CDC-Dengue Map 2013-8-10)。

この先もアジア各地では雨期が続くため、流行地域に滞在する際は、蚊に刺されないように十分な対策が必要です。なお、日本に帰国後、デング熱を発症した患者の数は、今年1月から8月中旬までに131人となっています(国立感染症研究所 <http://www0.nih.go.jp/vir1/NVL/dengue.htm>)。

・サウジアラビアで MERS コロナウイルスの患者がさらに増加

サウジアラビアでは8月も MERS コロナウイルスの患者が増加を続けています。8月26日の時点で累積患者数は82人(うち41人死亡)となり、この1か月間で10人以上増えています(米国 CDC-MERS HP 2013-8-26)。

7月末に発刊された医学雑誌にサウジアラビアでの流行の解析が掲載されました(Lancet Infectious Disease 2013-7-26)。2012年9月から2013年6月に診断された47人の患者を対象にしていますが、高齢者で基礎疾患(糖尿病など)を持つ男性に多く発生しています。このうち34人が呼吸不全となり、28人が死亡しました。流行発生から今年の3月までは患者が散発する状況でしたが、4月以降は医療機関などで集団発生がおきている模様です。また6月以降は監視が強化されたため、軽症や無症状の感染者も確認されています。

・中国での鳥インフルエンザ(A/H7N9)の流行は沈静化

中国沿岸部では今年2月から鳥インフルエンザ(A/H7N9)の流行が発生しています。8月中旬までに患者数は135人で死亡者は44人になりました(WHO Global Alert and Response 2013-8-12)。6月以降の新たな患者発生は2人で、夏の到来とともに流行は沈静化したものとみられています。今後、秋以降に流行が再燃する可能性もあり、引き続き中国への滞在者には注意を喚起する必要があります。

・カリブ海諸国でのコレラ流行

カリブ海のハイチでは2010年よりコレラが流行しており、流行発生以来の累積患者数は66万人にのぼっています(検疫所 HP 2013-8-15)。2012年10月以降、患者の発生は減少傾向にありますが、2013年前半の患者数は昨年同時期よりも高い水準です。隣国のドミニカにも流行が波及しており、同国の累積患者数は3万人となっています。ハイチやドミニカに滞在する際は、飲食物への注意に心がけるとともに、コレラワクチンの接種も検討してください。

・アフリカ東部でのポリオの流行

アフリカ東部のソマリアで今年4月からポリオの流行が発生しており、8月中旬までに患者数は108人にのぼりました(米国 CDC Traveler's Health 2013-8-22)。隣国のケニアでも12人の患者が確認されています。こうした状況を受けて、米国CDCはソマリア、ケニア、エチオピアに滞在する旅行者にポリオワクチンの追加接種を呼びかけています。ケニアには日本人観光客が訪れる機会も多く、滞在中は飲食物などへの注意が必要です。